

## 日本臨床検査医学会 2014 年度 第 3 回理事会 議事録

日 時：2014 年 10 月 18 日（土）12：00～15：45

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：村田 満理事長，前川真人副理事長，山田俊幸総務理事，諏訪部章会計理事，米山彰子庶務理事，安東由喜雄，佐守友博，北島 勲，小柴賢洋，藤田清貴，横田浩充，東條尚子，野島孝之，清水 力，本田孝行，清島 満，一山 智，杉浦哲朗，康 東天 各理事（以上 19 名）

欠席者：賀来満夫 理事，高木 康 監事，尾崎由基男 監事（3 名）

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、事務パートの瀬戸口友佳子氏（6 月 23 日より勤務）の紹介がされ、安東由喜雄 理事、一山 智 理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

### Ⅰ 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部報告の 2014～2015 年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定等について報告された。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 学術推進化委員会（藤田清貴 担当理事）

第 61 回学術集会での平成 24・25 年度学術推進プロジェクト研究最終報告開催と委員会開催の予定が報告された。

##### 2) 編集委員会（横田浩充 担当理事）

2014 年度の学会賞「優秀論文賞」候補者 3 名を選定し学会賞委員会に報告したこと、投稿時、共著者に自署、論文への関与を記載する形式に変更した投稿用紙、過去 2 年間以内の発表内容に関する企業・組織、団体との COI 状態を記載することとしたこと、また、その COI 報告書様式、「臨床病理」誌掲載の原著論文を中国語翻訳した転載許諾依頼があったが掲載予定原稿が臨床検査誌掲載のままであったため、このままでは許可できないことを回答したこと、オンライン英語ジャーナル検討のための WG を立ち上げたことが報告された。なお、投稿での COI 報告書について、金額など当会の COI 細則と統一すべきとの意見があった。

##### 3) 教育委員会（北島 勲 担当理事）

新専門医制度に向けた、研修カリキュラム、研修プログラム、指導医マニュアル等の整備を行っていること、第 61 回学術集会での RCPC、臨床検査を学ぶ若手医師の集いを企画したことが報告された。

##### 4) 臨床検査点数委員会（米山彰子 担当理事，東條尚子 委員長）

7 月 18 日に第 1 回臨床検査点数委員会（専門医会保険点数委員会との合同）を開催し、平成 28 年度診療報酬改定に向けた内保連ルートの提案書提出までのスケジュールを確定したこと、当会が編著している最新・検査画像診断事典 2014-2015 版が発行され、医学通信社より平成 26 年上半期分として約 270 万円の印税が入金されたことが報告された。

##### 5) 学会賞委員会（安東由喜雄 担当理事）

2014 年度の学会賞について、学会賞委員により事前審査を行ったうえ、7 月 25 日に委員会を開催し、学術賞：松下弘道氏（東海大）、検査・技術賞：池田聡氏（土浦協同病院）、若手研究者奨励賞：井上直哉氏（大阪大）、編集委員会より推薦された優秀論文賞：足立真理子氏（岐阜大）、住吉尚之氏（J 江南厚生病院）、松下誠氏（埼玉県立大学）を当委員会で承認し、理事長に報告をしたことが報告された。

なお、学会賞委員会からの報告後に、学術集会の抄録原稿の期日もあるため、持ち回り理事会を行い承認した。そして、常任理事会より濱崎直孝先生（九州大 名誉教授）を推薦、その他、理事からの推薦を募った結果、その他には推薦はなかったため、持ち回り理事会において、濱崎直孝先生の受賞を決定した。

##### 6) 標準化委員会報告（前川真人担当理事）

平成 26 年度は、日本で最も使用されている 4 つの TSH 測定試薬を用いて患者血清を測定し、乖離の実態を明らかにすることを活動目的とし、そのため、大阪大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会より、8 月 14 日に「甲状腺刺激ホルモン（TSH）測定値の標準化」という課題名で承認を得て、検体を収集するとともに、委員の所属している施設においても倫理委員会に申請していることが報告された。

#### 7) 精度管理委員会報告 (山田俊幸 担当理事, 前川真人委員長)

第 61 回学術集会において精度管理委員会主催でシンポジウム「外部精度管理と技能試験、その重要性と取組み」を企画、実施すること 2014 年度 CAP サーベイに 119 施設が参加 (対前年+ 10 施設) し、米国からの入荷、国内での「発送状態」、「試料の保存状況」、「結果報告」に関して大きなトラブルはなく順調に進行しており、新規サーベイ項目として、特殊項目など有用性の高い新規項目を準備していること、2014 年秋にかけて顧客満足度調査を実施する予定であることが報告された。

#### 8) EBLM 委員会 (小柴賢洋 担当理事)

7 月 6 日に委員会を開催し、新規事業「疾患別症例データベース構築プロジェクト」の目的、意義、実施計画 (全国の主要病院から、検査診断に重要な主要疾患を選び、1 疾患あたり 100~500 症例を目標に、一定の診断基準を満たす症例の発症時点での臨床所見、検査所見を体系的に登録しデータベース化することを目的とする) が、市原清志委員長から説明があり、プロジェクト参加施設の倫理委員会の承認を得たうえで、来年度の科研費を申請し採択されれば、これを活動費用とすること等が報告された。

#### 9) 利益相反委員会 (諏訪部章 担当理事)

医学研究の利益相反 (COI) に関する細則案を作成したこと、IVD 臨床検査室グローバルニュースの臨床病理誌との同送についてメール審議を行ったこと、前回の理事会での確認事項に対して回答したことが報告された。

#### 10) ガイドライン作成委員会 (東條尚子 担当理事)

9 月 6 日にキックオフミーティングを行い、臨床検査のガイドライン 2015 作成に向けた検討を行った。2012 版同様、大きく 3 章: 検査値アプローチ、症候、疾患構成とすること、前回の GL 出版には多額の費用がかかったため、次回委員会で検討するが、具体的には、冊子を会員全員には配付せず、医師会、図書館など、主だった機関への配布にとどめ、その代わりに CD 版の作成、あるいは会員は専用ページから WEB 閲覧とする、執筆者報酬を学会から支払うのではなく印税として支払う等の案が出されたこと、そして、発刊時期は、次回の学術集会開催時 2015 年 11 月 19 日を目標とすることが報告された。

#### 11) 広報委員会報告 (佐守友博 担当理事, 小柴賢洋 委員長)

10 月 14 日 (火) に振興協議会の広報委員会が開催され、当委員会への協力依頼をしたこと、学術集会中に本年度の第 1 回広報委員会を開催予定であること、本年度、日臨技「全国検査と健康展」において 19 都府県で臨床検査専門医による「検査説明・健康相談」を行う予定であり、専門医会では延べ 40 名の医師が出務することが報告された。

#### 12) 遺伝子委員会報告 (担当理事: 横田浩充)

臨床検査振興協議会医療政策委員会の「臨床検査の医療政策に関する勉強会」(厚生労働省等との勉強会) 会議、遺伝子分析科学認定士試験 (当会共同認定) の実施および試験結果、第 61 回学術集会で第 1 回委員会を開催予定であることが報告された。

#### 13) 国際委員会報告 (北島勲 担当理事)

2012 年と 2013 年の国際学会の発表者を対象として、2012 年発表として、大川龍之介氏 (東京大;発表時) 米国心臓病学会 (アメリカ)、田崎雅義氏 (熊本大) 第 12 回 ASCPaLM (京都)、中山亜紀氏 (文京学院大学) 第 12 回 ASCPaLM (京都) そして、2013 年発表として、菊地良介氏 (名古屋大) 第 4 回 AAMLS (シンガポール)、西岡光昭氏 (山口大) 第 13 回 APFCB (インドネシア) を 2014 年度国際学会奨励賞受賞候補者として選定し理事長に報告したこと、2014 年 8 月 24 日~28 日にマレーシア・クアラルンプールにおいて 2014ICPaLM ならびに WASPaLM Bureau Meeting が開催され、次回、2015 年 11 月 18 日~21 日にメキシコ・カンクンにおいて第 28 回 WASPaLM World Congress が開催予定であること、新委員として尾崎由基男先生 (山梨大) を推薦することが報告された。

なお、理事会以前に、国際委員会からの報告があり、学術集会の抄録原稿の期日があるため、持ち回り理事会を行い承認した。

#### 14) 医療安全委員会報告 (小柴賢洋 担当理事)

第 61 回学術集会での医療安全シンポジウム (リスクマネジメントに関する講習会)、テーマ「臨床検査におけるチーム医療と果たす役割」とし、11 月 24 日午後企画していること、委員会を学術集会に開催すること、6 月と 9

月に開催された医療安全全国共同行動の定時および臨時の総会に、それぞれ吉田委員長と村田理事長が出席したことが報告された。

#### 15) チーム医療委員会報告(米山彰子 担当理事, : 諏訪部章 委員長)

第 61 回学術集会チーム医療シンポジウム(日臨技と共催)をタイトル:医療従事者間のコラボレーション企画～チーム医療に対する取り組みと検査部に期待すること～として開催すること、厚労省研究班「医療従事者の業務範囲拡大に関する研究(北村聖班長)」へ理事長からの指名により委員長が出席しており、9月11日の第2回班会議で検査技師による微生物検査の検体採取、味覚・嗅覚検査などの業務拡大、教育機関でのカリキュラムに拡大業務の内容が盛り込まれること、既卒者には2日間の研修会を課すこと等が決定し2015年4月から施行される予定であること、第1回委員会は、第61回学術集会で開催することが報告された。

#### 16) 倫理委員会(諏訪部章 担当理事)

第 61 回学術集会で委員会を開催予定であることが報告された。

#### 17) 検査項目コード委員会(佐守友博 担当理事 康 東天 委員長)

JLAC11 案の策定作業を進めていることが報告された。

#### 3. 第 61 回学術集会報告(福岡 2014/11/22(土)～11/25(火))(康 東天 会長)

2014年11月22日(土)～11月25日(火)に福岡国際会議場において開催する第61回学術集会の確定した日程表が報告され、参加依頼、協力依頼がなされた。

#### 4. 第 62 回学術集会報告(岐阜 2015/11/19(木)～11/22(日))(清島 満 会長)

2015年11月19日(木)～11月22日(日)に長良川国際会議場、都ホテルにおいて、「臨床検査の発展～豊かな医療への懸け橋」というテーマで開催予定であることが報告された。

#### 5. 第 63 回学術集会報告(神戸 2016/9/1(木)～9/4(日))(小柴賢洋 会長)

2016年9月1日(木)～9月4日(日)に神戸国際会議場において、IFBLS、日臨技、兵臨技と同時期開催する予定であり、運営会社の選定を行いコングレに内定したことが報告され、理事会でも承認された。

#### 6. 2014 年度臨床検査専門医認定試験結果について(村田 満 理事長)

2014年8月2、3日(土日)に東京大学医学部(矢富 裕 試験実行委員長)で実施された第31回臨床検査専門医認定試験結果について、初回受験者14名、再試験受験者5名(内1名欠席)、合計18名について、新規受験者9名、再試験者4名、合計13名合格、不合格者5名のうち科目限定の要受験者は3名、要全科目受験者は2名であったことが報告された。

#### 7. 本学会からの関連団体委員推薦について(更新)(村田 満 理事長)

7月6日以降に関連団体に下記の通りの派遣委員を推薦したことが報告された。

- 1) 任期 2014/9/1～2016/3/31 ISO/TC212 国内検討委員会 団体委員:村田満先生、WG1 担当委員:渡邊卓先生、WG2 担当委員:佐藤尚武先生、WG3 担当委員:松本哲哉先生、WG4 担当委員:福地邦彦を推薦。
- 2) 2014/9/1～ 認定輸血検査技師制度試験委員会委員として大谷慎一先生を推薦。
- 3) 2014/07/22～ 臨床検査振興協議会 臨床に用いない検査試薬・機器及び検体測定室への対応に関する勉強会委員として菊池春人先生を推薦。
- 4) 2014/7/22 に ASCPaLM Secretary/Treasurer として尾崎由基男先生を推薦。
- 5) 2014/6/6 に 日本専門医機構社員として山田俊幸先生を推薦  
2014/8/1～2年間 日本専門医機構 臨床検査領域 専門医及び研修委員会委員として山田俊幸先生、木村聡先生、菊池春人先生、村上正巳先生、佐藤尚武先生、土屋達行先生を推薦。
- 6) 2014/4/1～2016/3/31 HbA1c 適正運用機構委員として矢富裕先生を推薦。
- 7) 2014/4/1～ 医療安全全国共同行動連絡委員として吉田博先生を推薦。

#### 8. 日本専門医機構からの専門医リストの提出依頼について(村田 満 理事長)

日本専門医機構より基本領域である当会の臨床検査専門医名簿(氏名、フリガナ、性別、生年(西暦)、専門医取得年月日、最新更新年月日、医籍番号、勤務先、勤務先住所)の提出依頼(10月末提出期日)があった。本年5月に日本専門医機構が設立され、本年度内に、本機構各領域専門医委員会により検討され専門医更新に係る基準が示され、明年度からは、本格的に専門医認定・更新審査に関する事業が施行される予定であるが、専門医個人並びに専

攻医登録データベースを構築し基本領域にまたがる重複登録のチェック等をするため、精度の高いデータベースを作成する必要があるため当会も提出予定であることが報告された。

#### 9. 大矢商会の 62 巻 1,2 号の広告掲載料について（諏訪部章 会計理事 村田 満 理事長）

以前の理事会でも、2月10日に広告代理店の大矢商会（申立人代理人：小林大晋弁護士）から廃業の通知があったことは報告していたが、東京地方裁判所より、2014年8月18日に(株)大矢商会が自己破産申立をしたこと、そして債権者集会の日程(11/20)の連絡、債権調査協力依頼があった。これに対して、当会の債権（1号：220,500円、2号：147,000円の広告掲載料）を記載して送付したこと、債権者集会後には、破産管財人（上野保弁護士）のもと債権者に公平に配分される予定であることが報告された。

#### 10. 各種契約更新について（村田 満 理事長）

2015年度の各種契約について以下のとおり引き続き更新予定であることが報告された。

(株)宇宙堂八木書店：臨床病理誌制作委託、発送委託、事務委託（一部）

古川俊治 弁護士：顧問（弁護士）

野沢孝志 税理士：顧問（会計）

克誠堂出版(株)：外販委託

福田商店広告部、(株)日本廣業社、(有)学術広告社：広告募集委託

#### 11. その他

##### 1) 健康・医療戦略室「次世代医療 ICT タスクフォース」への協力について（村田 満 理事長、康 東天 理事）

医療、介護、健康分野のデジタル基盤構築と利用のため、関官房健康・医療戦略室「次世代医療 ICT タスクフォース」が設置され、当会へも協力依頼があり、当会検査項目コード委員会委員長での康東天先生（九州大）に出席を依頼したことが報告された。

##### 2) 希少がん患者全国連絡会からの相談について（村田満 理事長）

希少がん患者全国連絡会会長より、厚労省に承認されてはいるものの普及していない状況である感受性試験について、診療報酬の増点を求めて普及を図りたいため、当会へも協力依頼があった。患者全国連絡会の希望は理解できるものの、本検査は、経費がかかること、そしてなかなか検査が成功しないこともあり、実施している施設はほとんど無く、知られてもいないようであるため難しい状況と思われる。今後、理事長が患者の会会長と話し、何か進展があれば、また、理事会に報告することとなった。

### Ⅲ 審議事項

#### 1. 2014年度補正予算案・2014年度中間決算報告・2015年度会計予算案について（諏訪部章 会計理事）

2014年度補正予算案、2014年度中間実績、2015年度予算案が提示された。

2014年度中間実績は、1月1日～6月30日までの実績の収支報告である。

2014年度補正予算案について以下の説明があった。

学術推進プロジェクト助成金を学会賞基金より一般会計の支出に移行し、その他、6月までに確定した金額（第60回学術集会返戻金、支部活動費、顧問料、学会賞副賞）を入れた。

2014年度予算案については、前年度に準じて予算立てした。

##### 1) 一般会計

収入：

・JACLaSからの寄付金を当別会計から一般会計に移行した。JACLaSからの寄付金を一般会計に移すことで、学術集会だけのために使用するのではなく、学術推進プロジェクトやガイドラインの出版費用を含めた諸々の学会活動費に役立てようという方向とした。

・2015年に臨床検査のガイドライン2015年度版作製の際、臨床検査振興協議会でも、ガイドラインのポケット版を作製するため、例年、協議会から支払われている編集査読料190万円と著作権使用料100万円を分けて立てた。

・第61回学術集会からの返戻金について、康東天会長からは1,700万円返金が可能という予想を聞いていたが、過去10年間平均の300万円を立てた。

支出：

・学術集会補助金について、理事会でも多すぎるとの意見があり、学術集会あり方委員会で検討し議論を踏まえ500万円にした。もし、不足する場合には追加で補助する予定である。

・臨床検査のガイドライン 2015 年度版の作成の方針はまだ、決定していないため、製作費として前回の経費と同額 510 万円、ポケット版の編集査読料 190 万円を支出に立てた。

## 2) 特別会計

JACLaS からの寄付金を一般会計に移行したため、収入、支出ともない。

## 3) アジア交流基金

利息収入のみ。

## 4) 学会賞基金

収入

・2015 年度学会賞寄金は 2 社より 100 万円の予定。

支出

・学会賞副賞 学術賞 50 万円、検査・技術賞 30 万、若手研究者奨励賞 10 万、河合忠賞 10 万、優秀論文賞 0~30 万、国際学会奨励賞 0~30 万円の予定。

以上の報告がされ、2015 年度予算案の外販および広告収入の見込みについて危惧する意見があったため、広告収入を 380 万円から 300 万円に修正することとなり、そのうえで承認された。

## 2. 2014 年度事業中間報告について（山田俊幸 総務理事）

2014 年度中間の事業報告がなされ、承認された。

## 3. 2015 年度事業計画（案）について（山田俊幸総務理事）

2014 年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

## 4. 各種委員会委員の一部追加、変更、女性支援 WG 設置について（村田 満 理事長、山田俊幸 担当理事）

標準化委員会 1 名、利益相反委員会 1 名、検査項目コード委員会 4 名の委員がアドバイザーへの変更、精度管理委員会 1 名、国際委員会 1 名、臨床検査専門医制度検討委員会 1 名の委員追加、試験委員会の担当領域の見直しについて報告され、承認された。

女性支援 WG 設置と委員案が提案され、承認された。

## 5. 2015 年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（村田 満 理事長）

名誉会員、功労会員、評議員の推薦について、それぞれの資格要件について確認され、以下の通り、名誉会員、功労会員、評議員会員として承認された。ただ、中国・四国支部からの横崎典哉先生については、本年度内に認定研修施設の申請、指導責任者の登録することを条件とした。

1) 名誉会員として渡邊直樹先生、玉井誠一先生の 2 名。

2) 功労会員として北海道支部から寺井格先生 1 名、関東・甲信越支部から武井泉先生、根本則道先生の 2 名、東海・北陸支部から、田内一民先生、森下芳孝先生の 2 名、近畿支部から田窪孝行先生 1 名、九州支部から杉内博幸先生 1 名、合計 7 名。

3) 評議員として、北海道支部から恵淑萍先生 1 名、関東・甲信越支部から金子誠先生、鯉淵晴美先生、里村厚司先生、角野博之先生、信岡祐彦先生、松浦知和先生、松下一之先生の 7 名、東海・北陸支部から伊藤弘康先生 1 名、中国・四国支部から横崎典哉先生 1 名、九州支部から太田昭一郎先生、高橋尚彦先生、中島収先生の 3 名、合計 13 名。

## 6. 評議員（社員）再任予定者（2015/01/01）について（村田 満 理事長）

2015 年 1 月 1 日付の評議員再任予定者 37 名が提示され、再任の手続きは、12 月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後なるが、細則の改定により、評議員の再任には社員総会の承認が必要となったため、今回の理事会、11 月 23 日の臨時社員総会の承認を得ておくこととなった。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となる。評議員再任の手続き、2015 年 1 月 1 日付の評議員再任予定者 37 名について承認された。

## 7. 第 64 回（平成 29 年度；2017 年）学術集會長の推薦について（村田 満 理事長）

2017 年は、村上正巳先生（群馬大学）が会長として京都で第 29 回 WASPaLM を開催予定のため、第 64 回学術集會と同時に開催とし、学術集會長については、関東・甲信越支部から推薦された村上正巳先生に依頼したい旨、説明があり、承認された。

## 8. 学術集会のあり方について（村田 満 理事長、前川真人 副理事長、諏訪部会計理事）

9月30日に学術集会あり方委員会を開催して学術集会の開催場所、学術集会長の選定方法、企業展示、補助金について検討を行ったことについて報告のうえ協議された。

### 1) 開催場所、学術集会長の選定方法について

第65回（2018年）以降、現在の支部持ち回り制でなく立候補制として、開催場所については参加者も見込める、原則、大都市、少なくとも政令指定都市レベルとすべきという提案について、立候補制として本当に意欲のある方がいるのか疑問、大きい学会とは違い当会の規模であれば地方都市でも十分に受け入れることは可能ではないか、今は政治的にも地方創生ということが言われており補助金も得られることが多いのではないかと、まず、学会がどういうビジョンを持つか方向性を決めなければならないのではないかとという意見があった。

### 2) 企業展示のあり方について

JACLaSが大規模な企業展示を開催し、JACLaSから寄付を受けているため、小規模な個別企業展示は可能であるが、当会学術集会では企業展示は開催しないことについて、学術集会中に展示を行うと活気があるため開催するのが望ましいところではあるがその方針で承認された。

### 3) 学術集会への補助金について

補助金は、他学会に比べ多額（実質1,700万円）であり、返金額の推移等を考慮すると、当面、500万円とするのが適当であり第62回から実施する。ただし、収支が赤字になった場合には、理由を明らかにした上で理事長に必要な額を申請できることとするについて、会長の負担とならず、実際に充足するのであれば問題はないのではないとなった。

### 4) 会長招宴について

学会行事とはせず、会長判断での開催は妨げないが補助金からは支出しないことについて、会長招宴は学会行事、そして補助金を使用しているとは言い切れないのではないかと、そのように学会として決定してしまうことなく会長の自由裁量に任せるべきとの意見が多数を占めた。

### 5) 学会事務局と学術集会事務局の関与のあり方について

学術集会の運営は、サポート会社も毎年変わり、引き継ぎがなされておらず学術集会事務局の負担が大きいと思われるため、3～5年間、サポート会社を固定化する提案について、開催がスムーズにいき、費用も抑えられる可能性もあるものと思われる賛同する意見が多かった。

これら理事会での議論をもとに学術集会あり方での再検討が依頼された。

## 9. 臨床検査専門医卒後研修カリキュラムの追加・変更について（山田俊幸 教育委員長）

3月29日の理事会で承認されていた臨床検査専門医卒後研修カリキュラムに、試験委員会の認定試験改定案を受けて、遺伝子関連検査を追加する必要が出てきたため、教育委員会で検討された案が示され、承認された。なお、挿入部分、その他、修正箇所を再点検して最終版とすることとなった。

## 10. 新専門医制度への対応について〔山田俊幸 総務理事（専門機構領域委員代表）、村田 満 理事長〕

新専門医制度について、日本専門医機構発足からの経緯の説明があった。主な事柄としては、以下の通りである。

5月に日本専門医機構が設立され、基本領域の学会から社員の推薦依頼があり、山田俊幸総務理事（教育委員長）を推薦した。7月に臨床検査領域の専門医委員会と研修委員会委員各7名の選定依頼があり、山田俊幸、前川真人、村上正巳、木村聡、佐藤尚武、土屋達行、菊池春人 各先生を推薦した（代表連絡委員は山田）。8月14日に事前打ち合わせ、18日に全体会議が開催され機構から説明を受けた。新制度開始後は、本委員会が機構側組織として研修施設認定、専門医新認定・更新認定を行い、新制度開始前は領域側の代表として基本プログラムや、認定更新の考え方を機構とすり合わせをし、自領域の折衝、他領域の状況を理解する等の目的で、今後数回会議が開催される予定。研修委員会は、2014年内に、研修プログラム整備指針（総論）を機構とすり合わせ、2014年度内にモデルコアプログラムを作成し、2015年度内に各研修施設でプログラムを作成し認定を行い、2016年早々に認定更新基準を示し2017年春から新研修プログラムによる専攻医の研修開始のため、研修プログラムを公示する。

2015年度からは新更新基準で更新することが決定しているため、専門医委員会は、それに合わせて、新基準案、救済措置などを機構側とすり合わせを行うが、更新単位としては学会参加単位等ではなく診療実績による単位を求められているため、自領域の専門医が準備可能な報告書を検討している。また、試験委員会と連携し、2020年までとそれからの認定試験内容を検討する。

これまでの経緯と現在の状況、今後の予定を会員へ周知するため、村田満理事長、山田俊幸臨床検査領域委員代表名で臨床病理62巻10号、HPに掲載予定であるが、その案内の文面が示され、掲載の要・不要、内容の確認が依頼された。これに対して、早く周知するのが望ましいとなり案内文についても承認された。

なお、第61回学術集会（11/22）での専門医会総会講演会において山田委員代表より概要を報告予定である。

以上の報告について、初期及び後期研修に入る研修生がいるのかどうか、領域の基本領域として専門医認定を行っていくことができるのか、病理専門医、内科専門医等とのダブルボードを認めてほしいという内容についての質問、

意見等があった。それに対して、領域委員も同様な考えを持っているため、病理の検査、内科診療もカリキュラムに入れるようにする等、そういったことが可能となるように模索し、機構側とも交渉していく予定であり、機構の委員会後に、随時、報告することとなった。

**11. 認定試験内規と2015年の試験実施要領の改定案について（村田 満 理事長、山田俊幸 総務理事、諏訪部章 会計理事）**

2014年5月、日本専門医機構発足に伴い、試験の客観性、透明性、公平性を確保するため、試験制度、内容の見直しをする必要があり、まず、認定試験内規について、必須科目8科目を6科目とすること、試験実行委員については評議員からではなく臨床検査専門医から指名すること、試験は筆記試験と実地試験（口答試験、実技試験）とし、筆記試験は、原則として記述式および多肢選択問題とすること、合否判定方法の明記等の改定案が提案され、承認された。

**12. 日本遺伝子診療学会からの要望、それに伴う認定更新制度規定一部改定について（村田 満 理事長、前川真人 副理事長）**

日本遺伝子診療学会より、当会の臨床検査専門医制度 更新規定にある「その他の関連学会」への認定要望があったことについて、承認された。

**13. 臨床検査管理医制度規定の一部改定について（村田 満 理事長）**

2014年8月30日の臨床検査専門医・管理医審議会において、臨床検査管理医更新単位は30単位、その内15単位以上は当会企画の会に参加による単位であり、その単位には 学術集会か特別例会何れか1回以上の参加した単位が含まれていることとなっているが、更新単位の設定では当会の学術集会、特別例会、支部総会及び例会は、それぞれ10単位であり合計して15単位となることはない、そのため、当会の企画する会への参加単位は20単位に改定することが承認されていた説明があり、承認された。

**14. COIに関する細則、COI申告書提出依頼、保管方法等について（村田 満 理事長、諏訪部章 担当理事）**

COIに関する細則案、自己申告書案、申告者の範囲、提出方法についての案が提示され、一部細則の順番の入れ替え、細則と申告書での表現の異なる部分があるためその修正等の指摘があった。10月末までに意見の提出依頼があり、それを委員会でも再検討し、次回理事会で最終決定することとなった。

**15. IVD「臨床検査室グローバルニュース」について（村田 満 理事長、前川真人 精度管理委員長、諏訪部章 担当理事）**

IVD「臨床検査室グローバルニュース」を臨床病理誌に同封する件について、利益相反委員会からの編集料（監修料）と送料等の実費を徴収することで同封可とするが、1社のみには便宜を図っていると受け取られるため、【同封を要望する者に対して、理事会もしくは理事会が指名した該当する委員会の監修を受け、承認された場合にのみ、同封が認められる。】といった内容の一文を「臨床病理」誌に記載し、誰にでも平等に門戸を開くスタンスを示す答申案が出され、承認され、編集委員会に臨床病理誌にその記載依頼がされた。

**16. その他（山田俊幸 総務理事）**

理事会、定時社員総会日程

2014年度第4回理事会：2014年12月27日（土）正午～（予定）

2015年度第1回理事会：2015年 3月28日（土）正午～15：30

2014年度に係わる定時社員総会： 〃 16：00～17：00

**V 閉会の挨拶（副理事長）（前川真人 副理事長）**

前川真人副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

\_\_\_\_\_ ㊟

\_\_\_\_\_ ㊟